

# おわりに

4月から8月の約4ヶ月半の間、私はセミナー世界の住人だった。いずれも一つのステージが終わった直後に次のステージに参加しているのだから、第3段階まで行った者としては最短だろう。

本文の終わりで少し触れたが、実は卒業後も、しばらくはハイステージの卒業式や、ミーティングにちょくちょく顔を出していた。まだ完全にはマインドコントロールからは逃れられていなかったし、「後輩」は気になる。しかしアシスタントなどは頼まれてもやりたくないと思っていた。

ベーシック・ミドル各ステージについては客観性を保てたかなと思っている。ただ前書きで宣言したとおり、第3段階については自分の日常生活が主な活動の場なので、多分に主観的、それもかなり悲惨な体験の文章になってしまったが、それはそれで仕方のないことだ。これが私のハイステージなんだから。

自己啓発セミナーについて克明に書かれた本に「洗脳体験」（宝島社）がある。私も読んだ。第1段階・第2段階については、私の文章よりも詳しいのではないかとも思う。ただ、この著者が第3段階のエンロールを経験したとしたらどうなっていただろうか。セミナーに対する印象が、多少なりとも違っていたことは想像に難くない。

私はハイステージ期間中、必死になってエンロールをしていたが、同時にこんなことも思っていた。「これはセミナーにとって最高の自己増殖システムだ」と。

ハイステージ参加者は、セミナーの受講者拡大のために動いているのは間違いない。しかし、「受講」している立場だから、セミナー側からは金銭的に一銭の報酬も与えられない。つまり営業経費がゼロということだ。それでベーシックステージに参加する者からは、一人7万円という比較的高額な受講料を取る。ミドルステージに参加した場合は、さらに15万だ。必要経費を差し引いても、かなりの利益になることは間違いないだろう。

現在の私は、セミナーのマインドコントロールからは脱していることは確信している。理由をあらためて振り返ってみると、意識していないところで程よいタイミングのきっかけがあった。

セミナーを受講した翌年に、私は3年ほど岐阜に転勤している。このセミナー会社は中京圏にも拠点があるのだが、受講者は当然別の顔ぶれだ。知己がいないということは、心理的なつながりも希薄になっていく。

またこの時期、私は折からのＪリーグブームの影響を受け、サッカー観戦を始めている。それは奇しくもパソコン通信（現在のインターネット以前の通信手段）の拡大期と一致し、岐阜に居ながら地元のサポーターや全国のサッカー好きの友人を多数持つことができた。

これが何を意味するかというと、「所属コミュニティの移動」である。

転勤によって強制的・物理的に横浜のセミナー本部とは隔離され、同時期にサッカー好きの仲間とパソコン通信を通じてつながることができた。

つまり自分の中心が「セミナー」から「サッカー」に移動したのである。

私の場合は転勤とパソコン通信の拡大という二つの条件が一致してもたらされたのだが、非常に示唆に富んだものだと思っている。この「コミュニティの移動」を人為的に行うことにより、マインドコントロールからの脱却を早めることができるのではないだろうか。

理由はもう一つある。いうまでもなくハイステージに対する疑問だ。

私の中では、ベーシック・ミドルステージでの心理体験とハイステージのエンロールメントが、どうしても自分の中で結びつかない。確かにベーシック・ミドルには感動させるものや、深く考えさせられるもの、ハッと気づかせるものが随所にあった。しかし、ハイステージではどうだろう。なんだかんだ言っても、結局は勧誘した人数がすべてではないか。

それもあって、私はこの「エンロール」を二度としたくないということは、重ねて申し上げたい。勧誘することに何の意義があるのか、見つけることができないのだ。

この文章も、そういう特殊な世界から帰ってきた人間としての視点にできるだけ徹するように、言い換えれば俯瞰するよう努めたつもりだ。ハイステージを除いては。

ちなみに、一度ハイステージを終えた卒業生に対しては、セミナーはほとんど興味を示さない。なぜなら、毎月新しいハイステージが始まるので、そちらの「エンローラー」のケアをしていた方が、遙かに営業効率がいいからだ。

最後までお読みいただいたことに感謝すると同時に、この国の中にこのような特殊な世界や問題が潜んでいることに対して疑問や問題意識をお持ちいただければ幸甚に思う。